

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

事業課題名	「ゾミア」地域における少数民族の社会経済動向に関する研究会
代表者名	藤田幸一（東南アジア研究所・教授）
事業概要 (600 字程度)	<p>William van Schendel が提唱し、James Scott (2009)で有名になった「ゾミア」は中国貴州省・雲南省から東南アジア大陸部北部をへてインド北東諸州やバングラデシュのチッタゴン丘陵部までの山岳地帯で、「国家から逃避してきた」多様な少数民族の居住地域である。近年、中国の「南下政策」が顕著になる中、インドも対抗して勢力を伸ばしつつある。同地域の少数民族の運命はどうなるのか？彼らは事態の動きに対していかに主体的に対応しようとしているのか？中国、ベトナム、ラオス、ミャンマー、インド、バングラデシュなど異なる国家の体制と政策は、彼らにいかに異なる影響を与えているのか？</p> <p>以上のような問題関心の下、日本全国から先端的な研究者や大学院生を招聘し、研究会を通じて知識や経験の蓄積をねらうのが本事業である。将来のより大掛かりな研究プロジェクトの組織化をめざし、ネットワークを構築・発展させることを目標とする。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>2016 年度は、他の資金源も組み合わせながら、合計 12 回の研究会を実施した（詳細は、別添・本年度分の「ゾミア研究会リスト」を参照）。講師の招へい数はのべ 26 人、うち国内 19 人（京都大学 5 人、大阪大学 2 人、名古屋大学 2 人、東京外国語大学 1 人、慶応大学 1 人、東洋大学 1 人、学習院大学 1 人、山形大学 1 人、津田塾大学 1 人、南山大学 1 人、神戸市外国語大学 1 人、広島修道大学 1 人、国立民族学博物館 1 人）、海外 7 人（USA2 人、タイ 1 人、バングラデシュ 1 人、中国 1 人、香港 2 人）であった。</p> <p>研究会の対象地域は、中国・雲南省からミャンマーのカチンやシャン、インド北東部のナガ、バングラデシュのチッタゴン丘陵部やいわゆるロヒンギャ、タイ、ベトナム、さらにインドネシアのカリマンタンやミャンマー南部の島嶼部など東南アジア海域世界までも含む非常に幅広い「ゾミア」地域であり、毎回多くの参加者を得て、非常に活発な議論が行われた。</p> <p>特に、2017 年 1 月 13 日と 14 日の両日にかけて開催した第 21 回研究会では、香港からクリスチャン・ダニエルズ教授とジアンシオン・マ教授の 2 人の世界第 1 級研究者を招聘し、それぞれの最新の研究成果を発表していただき、活発な学術交流ができたことは、今年度最大の成果であった。</p> <p>本研究会がねらいとする研究ネットワークは、一連の研究会を通じてさらに広がったとすることができる。</p> <p>なお「ゾミア研究会」は東南アジア学会等、関連学会の会員などに広く知られるところとなり、その中心拠点としての京都大学なかんずく東南アジア地域研究研究所は、非常によく頑張っているとの高い評価を得るに至っている。</p>